

自分の仕事の意味を感じながら仕事ができるのが魅力

子育て政策課 上田 泰弘 (一般事務 平成13年度採用)

小田原市役所を志望したきっかけ

地方自治体の業務は地域の生活と密着しているので、自分が行なった仕事が直接目に見える形で住民の生活に反映する事に魅力を感じていました。

大学時代は行政とは関わりの少ない学部で勉強をしていて、専門的な職業につく友人も多かったので悩む事もありましたが、地元で働けるという事も大きな魅力の一つでした。

生まれも育ちも足柄上郡なので、地方自治体で働くのならば愛着のある地域で一番大きな小田原市だと考えました。



現在の仕事内容

入庁して10年を過ぎましたが、最初の5年間は税金関係の部署で働きました。

ちょうど子どもが生まれたすぐ後の4月に子育て支援課(現在は子育て政策課に課名変更)に異動になり、現在に至っています。子育て政策課では、子育て支援センターという親子で集える場所の担当や子育て相談の担当などをしました。

子育て支援センターは、子育て中の親子が自由に遊べるほか、子育てに関する相談をお受けして、不安や悩みを一緒に考える施設です。直接私が親子が集う現場にいる訳ではありませんが、現場スタッフとどのような子育て支援センターにするかを一緒に考えながら、子育て中の方に喜ばれる場所になるような工夫を続けています。

仕事のやりがい

子育て政策課に異動してから特に強く感じるのが、自分の行なっている仕事と、実際の生活の結びつきの強さです。自分たちの生活、近所の方の生活などに、自分の担当する事業がどのような意味があるのかという事を感じながら仕事ができるのは大きな魅力の一つです。

また、事業を進める中で様々な分野の人と出会う事も多く、今まで自分が経験した事のない世界を感じ、それが自分の成長にも繋がると感じています。

受験生の皆さんへのメッセージ

今まで勉強した事や経験などが、色々な視点で生かせる職場だと思います。仕事の範囲がとても広いのですが、「市役所に入ったらこれがしたい!」というものを持たたら良いのではないのでしょうか。皆様とお仕事できるのを楽しみにしています。



入学前の子どもと家族の集まり「びよびよくらぶ」のクリスマス会にて